



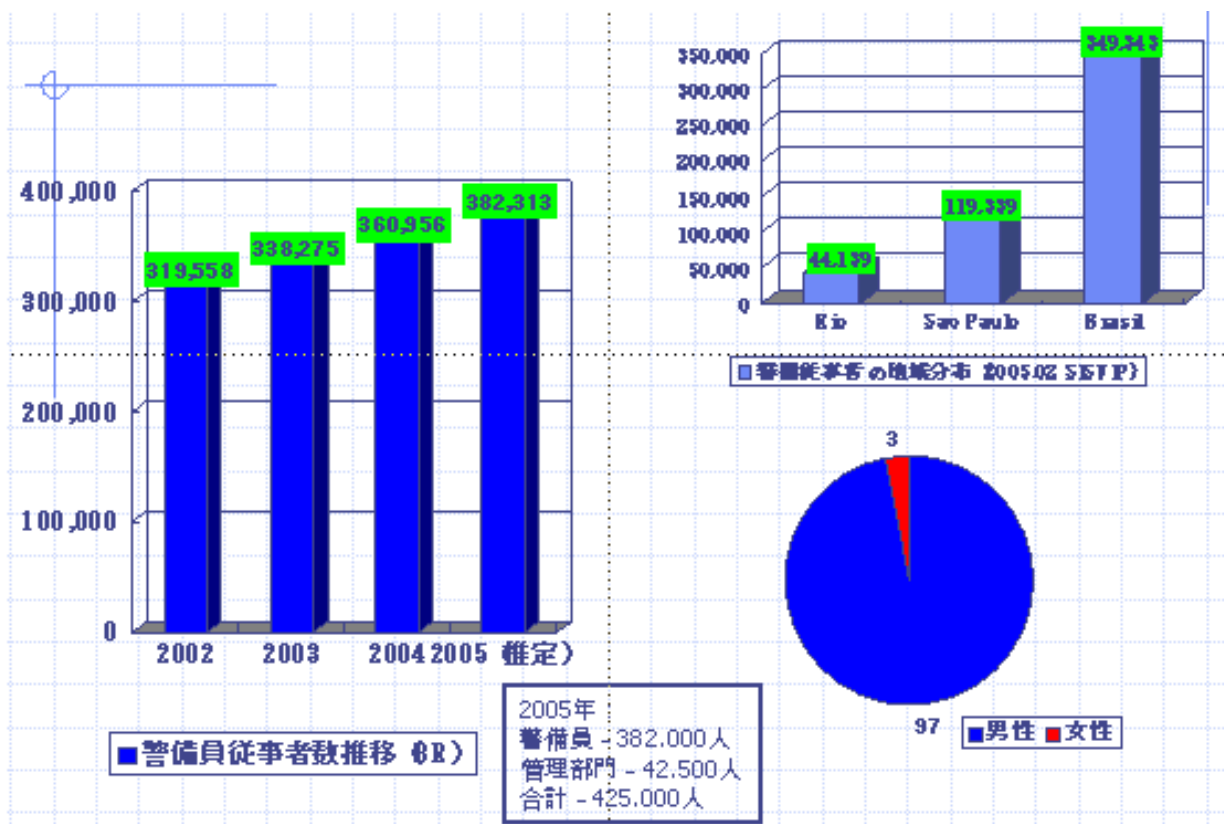
### ブラジルの警備員マーケット・データ

ブラジルでは現在、約 40 万人の警備員が登録されています。

そのうちサンパウロ州には約 1/3 の 12 万人の警備員がいて、民間警備の最大の市場となっています。

また、毎年 10 万人以上が新たに警備員の資格を取得しますが、警備員の資格を所得するとかつては容易に職に就くことができましたが、資格取得者の拡大とともに就職率は年々下がり、現在では 30%を下回るまでなり、また、定職期間は約 30%が 1 年未満、約 80%が 5 年未満と、不安定な雇用環境にあります。

男女比では男性の警備員の割合が 97%と大多数を占めます。



### 警備員の待遇等

一般的に危険な職業とされる職業であるが、サンパウロ州の警備員のベース給料は R\$762,00。

現金輸送車の警備員や輸送貨物を護送する警備員に対しては「危険手当」が上乘せして支給されます。

就業中の事故で警備員が死亡した場合には、上記の金額の 26 倍 (約 2 万レアル) が支払われます。

### 警備員が絡んだ新聞報道

警備員が就業中に事件に巻き込まれて死亡する事件や誘拐事件、銃の取り扱いミスによる暴発事故、また、警備員が銀行強盗などに荷担したというニュースがしばしば新聞紙上で報道されています。

警備員を雇用する側も、警備員の契約にあたっては十分な検討をする必要があります。

☆2007年6月、SaoPaulo市内のショッピングセンター、映画館のチケット売り場で強盗を働こうとしていた犯人を警備員が発見、抵抗され銃で撃たれ警備員（32歳）は死亡。

★2007年5月、SaoPaulo市で銀行強盗グループが逮捕された。犯人の一人はBrasil銀行に勤める警備員で、被害を受けた支店には15日前から勤務していた。警備員は仲間が内部に侵入する手助けを行っていた。これまでに別の支店でも勤務しており、そこで起きた強盗にも加担していた疑いが持たれている。

☆2007年3月、現金輸送を行う警備員が自宅で家族が誘拐され、警備員は犯人グループに輸送中の現金を引き渡すよう脅迫された。R\$1.800.000,00強奪。

☆2007年1月、現金輸送を行う警備員が帰宅途中に誘拐され、家族が人質となり輸送する現金を引き渡すよう脅迫された。R\$747.500,00強奪。

☆2006年4月、勤務中の警備員（58歳）が銃で死亡。殺人あるいは銃による暴発か原因不明。

★2006年3月、SaoCaetano市でCEF銀行の警備員（25歳）が犯行グループに加担し、グループが強盗のため銀行内に侵入するのを手助け。

☆2006年2月、リオ市で、銀行から現金を回収し現金輸送車に向かう途中で強盗団に襲われ、銃撃戦となり警備員の一人が死亡、二人が重傷を負った。

☆2006年1月、Jacarei市のCEF銀行内の警備員控え室で、警備員（21歳）が同僚の警備員にふざけて銃を向けたところ、弾が暴発し、撃たれた同僚は死亡。

★2005年12月、SaoPaulo市で銀行強盗を繰り返していた犯人グループを警察が逮捕。7人のグループのうち4人が銀行に勤務する警備員であった。

★2005年12月、Angra dos Reis市でコンドミニオ住宅への強盗が発生。犯人は同住宅で委託されていた警備員（26歳）で、犯行の当日は非番の日であった。

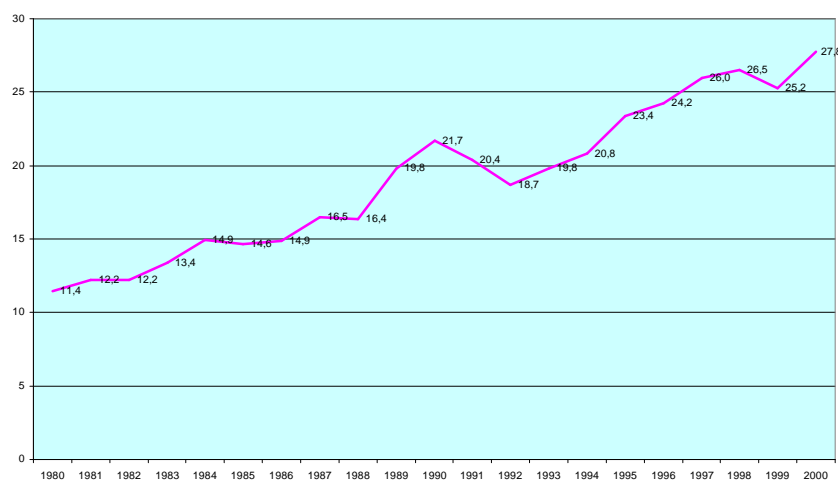
★2005年8月、RiodeJaneiro市で銀行強盗を繰り返していたグループが逮捕された。6人の犯人の一人は軍警察官で、別の一人はBrasil銀行に勤める警備員であった。逮捕された警備員は、同僚の警備員の銃から弾を抜くなどの工作を行っていた。

☆2005年5月、SaoCaetano市で、現金輸送会社に勤める警備員の自宅に強盗団が押し入り、家族を誘拐、警備員を脅迫し、翌日、配達する現金輸送車の現金を引き渡すよう強要した。

### ブラジルの犯罪実態

ブラジルで警備員の市場は毎年、GNPを超える成長を見せています。

その裏には、ブラジルの治安の悪化があります。



左記は1980年～2000年までのブラジル全体の殺人率（10万人当りの殺人件数）の推移です。

1980年当時の殺人率が11.4に対し、2000年には27.8と、20年の間に2.5倍も悪化しています。

なお、サンパウロ市の殺人率は56、リオデジャネイロの殺人率は69と、対して、東京の殺人率は2と大きな差が見られます。